



2024 年度
第 20 号

体育市民連帯 ニュースレター

1
体育市民連帯活動
執行委員長選任の件
執行委員会開催の件



2
小学1、2年生に
必要な
体育教科



3
スポーツが
人々に与える
非常に良い
影響



4
共感共生を通じた
暴力のない
スポーツの
世界のために



5
短い映像に慣れた
Z世代・・・
スポーツ生中継事業
「どうしよう」



大韓民国スポーツの
根本的変化を
皆さんと共に
作って行きたいです
体育市民連帯と共に
していただけますか？

01 體育市民連帶活動



1. 執行委員長選任の件

前 ホン・ドクギ 慶尚国立大学教授(2021.01.01~2024.05.14)

現 金ヒヨンス 元国家人権委員会スポーツ人権特別調査団長 (2024.05.14~2026.05.13)

2. 執行委員会開催の件

・ 報告事項

I. 前月議論案件進行状況報告

II. 事務局活動報告

・ 今後の體育市民連帶の活動方向

学生の身体活動の低調問題に対する改善要求

(国家教育体系内のスポーツの役割強化、利害当事者の意見を収集した後、市民運動に拡大するなど)

勝利至上主義の認識改善及び體育団体の権限牽制強化

(體育団体運営目的に対する意識喚起活動、體育団体私有化および独占権限の牽制など)

執行委員中心の業務推進

(各執行委員ごとの専門領域を考慮した業務分担、執行委員会の総括機能の強化など)

・ その他の議論案件

小学校 1、2 年生の體育単独教科編成など ※ 別添

I. 財政事項

II. 会員の現状

02 京郷新聞 2024. 05. 19 イ・スンベ安山花井小学校教師

小学 1、2 年生に必要な「體育教科」



1981 年に導入された統合教育課程の下で「楽しい生活」という名前で體育、音楽、美術が統合・運営された。以後、この 40 年余りの間、初等学校で體育授業がまともに行われない原因になった。小学 1~2 年生の身体活動不足問題もここから始まり、不足した身体活動は小児肥満など健康に悪影響を及ぼした。

小児肥満の増加は、新型コロナウイルスのパンデミック事態による一時的な現象ではない。小児肥満は適正時期に治療されなければ高血圧、糖尿など各種成人病の早期発病を誘発する。小児肥満のうち 75~80%が成人肥満につながるため、韓国社会が最優先的に解決しなければならない深刻な問題といえる。各種統計を見ると、韓国の学生 10 人のうち 4 人が肥満、残りの 6 人のうち多数が運動不足による健康問題を経験している。あえて統計を探さなくても、今子供たちが動いている姿だけを見ても深刻な「運動不

足症」を確認することができる。1～2年生の子供たちはまともに走ることができない。半分以上の子供たちが運動場一周を完走できない。一周すると、吐いたり頭痛を訴える子どもたちもいる。

このような深刻な事態はなぜ発生したのだろうか。1～2学年の担任教師たちが体育をまともに教えていないためだ。教室の外でする遊びまたは体育の授業は、教室内の活動と比較すると疲労度ははるかに高い。40分間、体育または遊びの授業をしようと運動着に着替えるのも面倒なことだ。たとえ運動場に出ても1～2年生が体系的な身体活動授業を受けている姿を探すのは難しい。

この40年間、初等学校1～2年生の児童たちの体育教育は学校現場から消えた。教育課程改正の度に体育界と学校現場など色々な所で批判の声が絶えず提起された。深刻な小児肥満率だけでなく、大筋肉を使おうとする子供たちの運動欲求、正常な発育・発達、脳刺激および成長などに関する問題が引き続き出てきたが、教育課程の変化を引き出すことができなかった。

全世界で韓国だけが唯一、体育教科を音楽や美術教科と統合して教えている。米国、カナダ、英国、ドイツ、フランス、フィンランド、オーストラリア、ニュージーランド、中国、日本、香港、シンガポールなどは教科名に差があっても初等学校1～2年生から体育教科を他の教科と分離して独立的な教育課程で運営している。体育教科を独立的に運営してこそ、論理的妥当性を堅持し、実効性を収めることができると判断したためだ。幼稚園教育でも体育を音楽や美術と切り離して教えている。

体育教科を単独編成したのは初等学校3～4年生からだ。なぜ小学校1～2年生の体育を美術、音楽と統合して教えないといけないのか。教育の一貫性や連携性と体系を見ても、体育、音楽、美術を一つの教科に統合しなければならないということは理解し難い。

最近、国家教育委員会は数回の議論を経て「体育教科を他教科と分離・独立的に運営しなければならない」と公式的に審議・議決した。遅ればせながら幸いな決定だ。

教科書開発などのための2～3年の準備期間が残った。一部の現場の反対の声もあるが、体育活動空間の用意および改善など、実際に適用するための賢明な教育的決断が必要な時点だ。

出典：<https://www.khan.co.kr/opinion/contribution/article/202405192040015>

03 ニュースワッチ 2024.05.13

スポーツが人々に与える非常に良い影響



国家教育委員会は教育部の要請で先月、初等学校1、2年生の身体活動関連教科を新設する内容の国家教育課程変更案を審議、議決した。これで、3～5年後に小学校1、2年生に別途の体育科目ができるようになる。

現在、小学校1、2年生の体育は5次教育課程が適用された1989年から音楽、美術と共に「楽しい生活」という統合科目に含まれているため、生徒たちは音楽と美術、体育を教師の分配によって学ぶことができるが、今はここから体育が分離され一つの独立した科目として新設されるのだ。教育部は、新型コロナウイルス感染症の拡散後、生徒らの体力低下や肥満問題が深刻だとし、低学年の身体活動時間を増やすため、体育教科を分離すると明らかにした。

ところがこの変更案に対して保護者たちは肯定的な反応を示したが、教師側では体育科目分離および新設に反対する声が出てきた。初等学校教師労働組合が行ったアンケート調査では98%の教師が体育科目分

離が「合理的ではない」と答えたが、その理由としては「十分な議論のない拙速推進」を最も多く挙げたということだ。

続いて発達段階に合う統合教科の必要性と非教育専門家の介入憂慮が後に続いた。体育科目は他の科目に比べて相対的に安全事故が発生する危険が大きい。したがって、これに責任を負わなければならない教師の負担感が増え、関連して色々な嘆願が発生しうる点なども反対の声に力を与える根拠だ。

体育の重要性は誰もが共感している。知徳体は1900年代の社会的談論の中心テーマである教育論の核心的な3つの体系だった。真の教育のためには知育、徳育、体育を調和させなければならないということだ。しかし、コンピューターモニターとテレビ画面の前に座って生活する習慣が支配する世の中で、次第に生徒たちの体力は弱まり、肥満児の数は増えている。

それでも幸いなのは、スポーツの魅力は明るく輝き続けていることだ。町の遊び場から大型競技場まで、スポーツに対する情熱は情熱、同志愛、貴重な人生の教訓を呼び起こす。青少年スポーツの拡散は単なるトレンドではなく、深い意味を持つ文化的現象だ。そのため、幼い頃から身につけるスポーツは、人生を生きていく上で必要な大切な資産だ。良いベッドより、補薬より良い資産だ。

青少年のスポーツに対する情熱が持続する理由と利点はあまりにも多い。まず、スポーツは年齢、民族、背景の壁を越えて普遍的な言語を提供する。ボールを蹴ったり、バスケットボールを投げるなど、スポーツは友情を築き、違いと差別を無視する共通の基盤を提供する。このような包容性は若い運動選手たちの間に所属感と共同体意識を造成し、彼らの社会的関係を豊かにする。

さらに、スポーツの身体的利点はいくら強調しても過ぎることはない。肥満と座って生活する生活方式が蔓延した時代に、スポーツは身体活動の重要な排出口を提供する。スポーツに参加すれば、心血管の健康と体力が向上するだけでなく、一生の規律と忍耐の習慣を植え付けることができる。汗と努力を通じて若い運動選手は努力の価値と限界を越える補償を学ぶ。

肉体的領域を越えてスポーツは人格発達のための強力な訓練場の役割をする。熾烈な競争の中で若い運動選手は逆境、失敗、チームワークの重要性和格闘する。人々はスポーツを通じて挫折を乗り越えて立ち上がる方法、チーム員を信頼する方法、卓越さのために努力する方法を学ぶ。

このような教訓は現場や法廷をはるかに跳び越えて人生の挑戦に正面から対処する準備ができる弾力があり共感する個人を形成する。さらに、ますます相互連結される世の中で、スポーツは文化交流と理解のためのプラットフォームを提供する。サッカーを通じて国を一つにするワールドカップであれ、多様性と優秀性を見せるオリンピックであれ、スポーツは国境を越えて多様な文化に対する共感と尊重を育てる。

もちろん、スポーツの拡散現象にいくつかの問題が潜んでいるのも事実だ。「果たして私たちは社会経済的地位や性別に関係なくすべての人に同等な機会を提供しているのか?」、「私たちはスポーツマンシップとフェアプレー文化を育成しているのか?」、あるいは「どんな代価を払っても勝利を優先視しているのか?」等がそれだ。私たちはみんながスポーツの恩恵を受けられるようにしなければならない共同責任がある。これには包容的なインフラに対する投資、男女平等促進、草の根から専門家水準まで清廉性とスポーツマンシップ文化育成が伴う。

若者の間のスポーツの拡散は単なる娯楽ではなく、次の世代を形成する奥深い社会的な力だ。若い運動選手たちはドリブルして、スイングして、疾走しながら人生を生きながら運動能力を磨くだけでなく、弾力性、チームワーク、共感に対する貴重な教訓を吸収している。和合と理解を渴望する世の中で、スポーツはおそらくより明るく包容的な未来のための指針を提供するだろう。

体育は重要だ。 体育活性化のために科目分離を要求してきた大韓体育会など体育団体と文体部も歓迎の見解を明らかにした。 父兄たちも大部分肯定的な声を出している。 体育まで私教育化されている状況で、負担を減らすことができるということだ。 基礎研究と教科書開発などの手続きが残って体育教科を分離するまでは2~3年程度がかかると予想される。 残りの時間、現場の声を反映して教師と生徒の両方に楽しい体育の時間が作られることを期待する。

出典：<https://www.newswatch.kr/news/articleView.html?idxno=67979>

04 2024. 05. 14 国立木浦大学体育学科教授 共感共生を通じた暴力のないスポーツの世界のために … 易地思之型 VR 教育コンテンツ



2020年、トライアスロン国家代表出身の故チェ・スクヒョン選手はチーム内の過酷行為に苦しめられ、極端な選択で生を終えた。 このように教育界の大小の非倫理的事件は社会的に大きな反響を呼び、体育界の暴力と不正を防ぐために同年、文化体育観光部傘下のスポーツ倫理センターがオープンした。 このセンターにはこの3年間、全国学校運動部の人権侵害申告が82件受け付けられた。 しかし、このうち実際に懲戒や捜査依頼が要請されたのは半分しかない。

根絶されない体育界の暴力問題を根絶し予防するため、国立木浦大学のチョン・サンワン教授（体育学科）はVRを利用して、これまでとは違う方式でこの問題に接近する。「共感&共生のスポーツ文化のためのスポーツ倫理VR教育コンテンツ開発」だ。 今回の研究には易地思之（訳注：相手の身になって考える）精神を土台に体育人文学・工学・文学・演技&演出など多様な学問が融合した。

チョン・サンワン教授は「選手出身ではないが長い間体育界に携わってきて、専門運動選手が体験する非倫理的行為問題に常に胸を痛め、このような関心の始まりが研究を直接遂行することになった契機になった」と研究背景を明らかにした。 チョン教授は「成績だけが彼らの未来を決定する冷酷な性的第一主義文化は結局暴力という非倫理的問題を量産することになった決定的原因」と問題点を指摘した。

年1回1時間教育、暴力根絶は難しい

これまで体育界の暴力問題に対する予防教育がなかったわけではない。 種目別にスポーツ倫理教育を行う2021年からは国民体育振興法2・3次改正で法定義務教育として制度化した。 だが、「性暴力など暴力予防教育」、「スポーツ人権教育」等はせいぜい1年に1時間を教育するのに止まる。 このような方法で体育界の人権問題を予防し、解決することは決して容易ではない。

研究チームはこの問題を解決するために、現在行われている一方的な知識伝達教育に代わる効果的な教育方法を探すことに力を注いだ。 実際のシナリオに基づいたVR教育コンテンツの開発である。

チョン教授は「国外で4次産業技術を活用して非倫理的問題を解決する研究が多方面に試みられることを見て、国内にも適用できるという考えで今回の研究を始めることになった」と話した。

英国は児童視点の虐待・放任経験を土台に製作されたVR教育サービスプログラムを提供する。 このプログラムは子供に対する共感と理解度を高めることができ、大人の行動に変化を与え、児童と家族の生活を

改善するのに活用する。 オーストラリアは専門選手の薬物ドーピング問題を解決するため、制度的な次元で仮想現実技術を適用する。

研究チームは「スポーツ倫理教育に VR を適用すれば、既存のスポーツ倫理教育が持っている限界を克服し、躍動感のある間接体験を通じて教育の効果を高めることができる」と話した。

先輩より指導者暴力の大半…言語暴力による傷

現実的なシナリオを構成するために、研究チームは現職運動選手と指導者、関係者をはじめ、関連専門家と深層インタビューを行った。 上位カテゴリーは専門スポーツ文化、競技中の暴力的行為、体罰と暴力の違いなどを中心にインタビューし、下位カテゴリーは競技中の暴力行為、スポーツで暴力許容範囲などに分けて調査した。

研究の結果、先輩より指導者の暴力が被害者により大きな影響を及ぼしたことが分かった。 指導者は、生計維持と生存のために選手に攻撃的な行動をしたと述べた。 この場合、大部分の被害者は加害者の暴力理由と行為に対して一方的に理解すると答えたが、共感するわけではないと明らかにした。 何より被害者は身体暴力の経験に劣らず、言語と情緒暴力でさらに深い傷を受けることが分かった。

チョン・サンワン教授は「実際の被害事例を選別してシナリオを製作し、仮想現実技術を活用して現実感を持って再現する方式で進化した」として「既存の形式的で一時的な教育の限界を克服し、スポーツ倫理教育が追求する本質にさらに近づくことができる」と明らかにした。

開発されたシナリオに基づいて演技者たちが演技をし、モーションキャプチャーカメラで撮影している。

「易地思之」の精神で共感・共生シナリオを制作

研究チームはインタビューでストーリーの核心要素を抽出し、3件のシナリオを完成した。 シナリオには一つの暴力事例にそれぞれ被害者・加害者・傍観者の観点から眺める内容が盛り込まれた。「今回の研究を活用した教育は没入度を高め、相互作用と学習効果を育てることができる。 また、健全なスポーツ倫理文化の確立に重要な羅針盤の役割を果たすことができると期待している」

研究チームは完成したシナリオを基に VR コンテンツを製作した。 まず、モーションキャプチャーカメラで多数の演技者を撮影し、形状と動作資料を収集した。 顔面表情追跡技術を活用して演技者の表情をアバターに適用し、コンテンツ配役に使用者の顔にアバターを変更できるようにして没入感を高めた。

ここに脳波装置、心拍数測定器、呼吸測定センサー、瞳孔追跡用 HMD(頭着用ディスプレイ)のような測定方式を総合して全体コンテンツに対する効果性を評価し、コンテンツのどの部分がユーザーに影響を及ぼしたのかについて具体的に分析する予定だ。

チョン教授は「今までスポーツ倫理教育に対して反省的思考で分析し批判した研究がほとんどなかった」として「現行スポーツ倫理教育に対する考察が初めてなされたという点で研究価値がある」と話した。 チョン教授はまた「今まで情報通信技術は体育界で競技力向上や健康管理次元として活用することが大部分だったが、今回の研究を通じて人文社会学基盤で教育コンテンツとして活用できるという示唆点を提供する」と明らかにした。

出典：<https://www.kyosu.net/news/articleView.html?idxno=119541>

05 イデイリー 2024. 05. 20

短い映像に慣れた Z 世代…スポーツ生中継事業、「どうしよう」



短い動画やハイライト映像に慣れている Z 世代の間で、スポーツ試合の視聴に対する関心が減り、中継権を基盤にしたビジネスモデルが脅かされていることが分かった。

17日（現地時間）、フィナンシャルタイムズ（FT）によると、若者層から生中継でスポーツを視聴する人が減っている。

英国のインターネット基盤市場調査およびデータ分析企業であるユーゴブによれば、スポーツ生中継競技を視聴した年齢帯を見れば、55歳以上の中高年層は75%に達した反面、18～24歳の若年層は31%に過ぎなかった。

若年層は生中継の代わりにハイライトクリップを視聴したり、ソーシャルメディア（SNS）を通じて運動選手たちと疎通し、また相当数はビデオゲームを通じてスポーツを楽しんでいると把握された。

米国のモーニングコンサルタントが実施したアンケート調査でも、1997年から2012年の間に生まれた Z 世代のうち、ほぼ半分が生中継でプロスポーツの試合を観覧したことがないことが分かった。また、自分を「スポーツファン」と答えた割合はミレニアル世代は69%に達した反面、Z 世代は53%に過ぎなかった。モーニングコンサルタントは報告書で「スポーツに対する Z 世代の全般的な関心度は、以前の世代より著しく低い水準」と説明した。

このような変化の原因としては、まずスポーツ観戦チケット価格と OTT 購読料の上昇などによって、若年層のスポーツ管理費用が高くなったことが挙げられる。また、短い形式のコンテンツを好む雰囲気、既成世代とは違って、他の形態の娯楽用の楽しみが溢れているのも理由として挙げられる。

このような雰囲気の中で、数十億ドル規模のライブ放送契約を基盤とするビジネスモデルの長期的な生存可能性を脅かしており、業界は緊張状態だ。イングランド・プレミアリーグ、ウィンブルドンテニス選手権など多くの有名スポーツビジネス諮問会社であるコンサルティング会社ツアーサークルズのガレス・バルチ共同設立者は「今、皆が業界の未来について心配している」として「強気市場というよりは弱気市場に近い」と話した。

未来の顧客層である Z 世代との接点を増やすため、若いスポーツファンを対象にしたマーケティングに力を入れている。

今夏のパリ五輪ではヒップホップ文化を代表するダンスである「ブレイキング」が正式種目に採択され、世界トップクラスのビーボーイとビーガールが競争を控えている。サーフィンやスケートボード、スポーツクライミングに続き、ブレイキングを正式種目に採択したオリンピック組織委員会は、オリンピックだけでなく、生中継スポーツ競技に関心が減った若者層を攻略できることを期待している。

米国では若いスポーツファン攻略のために NFL が最近スーパーボウルを生中継する時、漫画キャラクターであるスポンジ・ボブとパトリック・スターを解説者として前面に出した。該当チャンネルの視聴者たちは拡張現実(AR)を活用して仮想の緑色スライムがエンドゾーンに撒かれるなど面白い場面を盛り込んだりもした。

多くの大会主催者は、若者層に近づくために TikTok や Snapchat のような SNS でも認知度を高めており、子供や青少年と疎通し、スポーツの楽しさについて知らせ、究極的には一生ファンにするためにオンラインゲームを活用したりもする。

スポーツマーケティングエージェンシーIMG のバニー・フランシスグローバルプロダクション総括は「多様な年齢と好みに合う代案プログラムを通じて業界が継続して革新するだろう」とし「技術のおかげでプロデューサーたちはスポーツ生中継を扱う方式でより一層創意力を発揮し、スポーツを越えて文化的瞬間になる新しい視聴者経験を創出できるようになった」と評価した。

出典：

<https://www.edaily.co.kr/news/read?newsId=03056966638890888&mediaCodeNo=257&OutLnkChk=Y>

06 週間スポーツニュース

2026 忠南道民体育大会、唐津市開催確定

https://www.newsis.com/view/?id=NISX20240520_0002740470&cID=10501&pID=10500

清州福大国民体育センター開館…プール・生存プールが揃う

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20240520071700064?input=1195m>

体育人のキャンプ訓練のメッカとして注目される槐山郡

<https://www.cctoday.co.kr/news/articleView.html?idxno=2195730>

全羅南道教育庁、第 18 回全国障害学生体育大会歴代最高成績

<https://www.sportsseoul.com/news/read/1430282?ref=naver>

大韓体育会、国家代表選手村家庭の月イベント開催

<https://www.kmib.co.kr/article/view.asp?arcid=0020117168&code=61161111&cp=nv>

大韓障害者体育会、パリパラリンピック金 5 つを目標に

<https://www.asiatoday.co.kr/view.php?key=20240520010009766>

青陽郡、2024 年職員ハンマウム体育大会開催…7 年ぶりに和合の場

<https://news.tf.co.kr/read/national/2099875.htm>

全北体育の未来有望株「勝戦報鳴る」

<https://news.mtn.co.kr/news-detail/2024052010583187117>

動く体育館スポーツバス、光州中央小学校を訪れる

<https://www.news1.kr/articles/5419593>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。
私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>